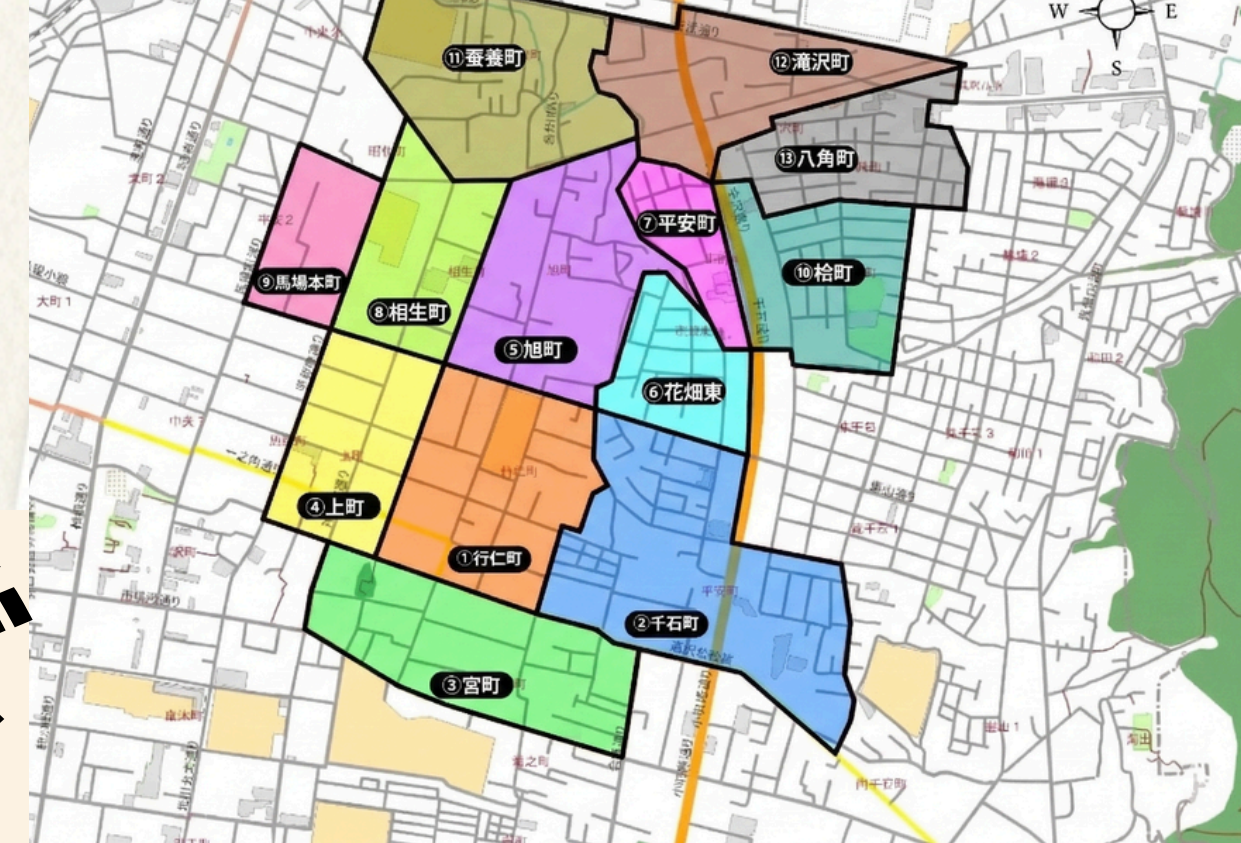




世界と会津をつなぐ 着任1年目の活動報告

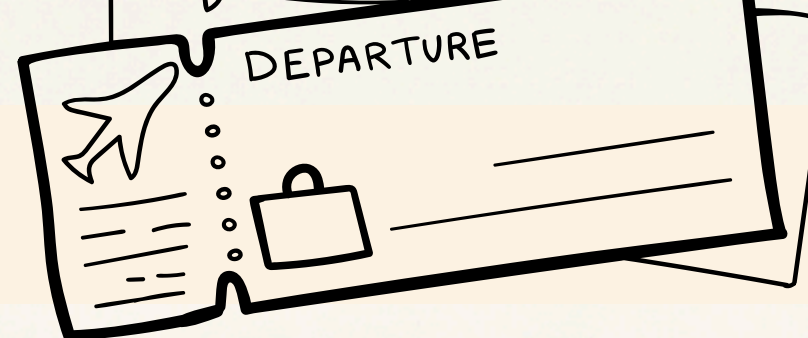
地域おこし協力隊・行仁地区地域コミュニティ活動支援



堀江 公平

任期：令和7年11月～令和10年10月





横浜から世界へ、そして食のプロフェッショナルへ



40カ国

世界中を食べ歩き、
多様な食文化を体験。



飲食店経営

横浜で人気店を経営。



メディア出演

看板メニューの
「エッグベネディクト」が
日本テレビ系列
『スッキリで紹介』

なぜ、会津若松を選んだのか？



温かい人間関係

人と人の距離が近く、
信頼関係を大切にする風土。

新たな挑戦の舞台

この温かいコミュニティなら、
新しい価値を生み出せるという確信。

母の故郷

幼い頃から親しんできた
特別な場所。



行仁地区の魅力を「外」へ発信する日常業務



ホームページ更新

地域のリアルタイムな情報を整理。



SNS発信

日々の活動や街の風景を広く共有。



イベント企画

住民同士が交流できる場をデザイン。



ポスター作成

視覚的に分かりやすく情報を伝達。

地域を動かす：歩いて、浸かって、つながる



行仁歴史探訪ウォーク

22名の方が参加、コミセンを
出発し、芋煮会で世代間交流。
改訂版マップ「行仁の歩き方」
も制作。

温泉バスツアー

北会津「ふれあいの湯」へ。
健康体操とランチで、ゆるや
かな「ごほうび時間」を創
出。



食を通じた新たな対話：チョコレート交流会

婦人会や市の職員などの協力を得て行仁コミセンで
開催した初の「食の体験型イベント」。



見る

本物のカカオ豆に触れ、
背景を知る。



触れる

ガナッシュ作りやデコ
レーションを共に楽しむ。



味わう

世代を超えた会話が生
まれる温かい空間。

点と点をつなぐ：なぜ「会津×カカオ」なのか？

アフリカからの視点

アフリカの友人からの
輸入提案を契機に、
「貧困問題」
「フェアトレード」
JICAの国際支援
テーマとしてのカカオ
の可能性に着目。

クラフトチョコレート

会津と世界（アフリカ）を
つなぐ小さな架け橋。

発酵食品同士の
完璧なマリアージュ。

会津の地域資源

日本酒や独自の
「発酵文化」など、
会津が古くから
培ってきた豊かな
食文化の歴史。



自己紹介

【出身】 大阪市西成区

生まれも育ちも大阪
下町の中の下町
通天閣が有名



- ・高校大学も関西で過ごし
大阪が本社の企業に就職
(大阪弁がまったく抜けず……)
- ・サラリーマンとして34年間働き
思うところあり定年を前に退職
- ・1年半のフラフラ生活を経たのち
地域おこし協力隊として
会津若松に移住

【趣味】

ラグビー観戦、旅、居酒屋めぐり、読書

■本が好き——

目標は1年100冊読書。

会社員時代に

「運のいい人の法則」を読み

自分は運がいい人だと気づく。

■運のいい人に共通するのは……

①外向性→たくさんの人に会う。

②開放性→しきたりに縛られない。

新しい経験を喜んで受け入れる

③肩の力を抜いて生きている

——どんなときでも

「なんとかなる」と思っている。



今年度協力隊活動報告

活動期間 2024年4月～



【2025年度の主な活動】

- ①note「行仁まちづくり協議会」発信
- ②小冊子「行仁の歩き方」発行
- ③「行仁まちづくり協議会」HP
- ④「八角神社『お日市』」(7/30)
- ⑤「行仁の歩き方ツアー」ツアーガイド
- ⑥桧町「歳の神」参加



次年度目標、そして卒隊後に向けて

会津若松私生活2年での気づき

【ええとこ】

- ①都会でもないし田舎でもない
- ②生活に不便がない
- ③飲み屋が多い(酒が美味しい)

【よくないところ】

○1人で入れる飲み屋が少ない

私生活2年で成し遂げたこと

居酒屋(飲み屋)100軒で飲む
(Bar、スナック、パブなど除く)

- ・そのなか行きつけは5軒
- ・とくにお気に入りの店は
→1人でも気兼ねなく飲める

会津若松に住むために残り1年、 コミュニティの場づくりに向けて

地域コミュニティの場としての

「立ち飲み屋」ができないか……

- ・若者も観光客も1人でふらっと入れる
- ・気さくに横に立つ人としゃべれる
- ・たくさんの人と出会い新しい話ができる店
→いい運をつかむことができる場

会津にはない「立ち飲み屋」
そこには、
人間関係のしぐらみも
いかなる境界線も存在しない



会津坂下出身の遠藤留吉氏が
大阪でたこ焼きを開発した
「会津屋」本店は
大阪市西成区の玉出にあるが、
新田の出身はその玉出